

琉球通信始原

通航一覽曰按之載國名乃字中山世繼之流乳也書
譜の時羽務尉朱寬然之國之西之方濤乃向
有故の事地形を見ふ之乳乃水中之浮魚の如き
と之を拾之流乳也といふ之記一隋書之流求と書之
宋書之れ之流求南島志之載此方中流名朝流也之流乳之取之始
也之流乳之名存之中山之南之海也
新唐書之流鬼元史之流求之他之中華之書之

外務省

龍宮島求琉球之文字の記之今俗に海中に宮城ありと
いふ言ふ即ち琉球なりとの
説られしも姑
おれと舎中山傳信録之今流文字小故あり明乃
洪武中より之事とあり之記之治大綱言今
昔物語之仁壽三年宋の高人象暉之琉球之漂流乃
事を載之既之琉球と記之た之洪武以前今之文
字を用ひ之知海島之南島志之世國地初市北
長く東西狭く之國地七十四里大島集記之南北千里
許島每十里許と記
琉球諸島の北に千里南に千里西に千里東に千里
有之之れ也邦乃其故とて等也 王府之國乃西南より之

首領とて山海港二而東北より代運吏也といふ

西南より故那覇といふこと同切といふは万里程

の間に生教三千六百部を令降仁浦流大里等あり

此北海島三千六百部を皆出國の属にして記す大島

筆記の方位より中邦薩摩乃南部二百千里餘

の海中より河の大島記より三百千里琉球漢土より福州

西行四百里許といふ中国を大琉球といふ大島と小琉球といふ

とを論ずるは其を定むるは大方今に薩摩の属にして中後漫録に記す

在右集に琉球領といふ彼大島記より唐十二年回島を海着て琉人の

活を記すは其の事ありて琉球の事ありて見え

中山傳は琉球國志等より始祖を天孫氏と

不相傳ふるは五世遠臣利勇といふ其君と

載るる自立は浦添按司舜天おれを討つといふ

國人推する王とし天孫氏より代はるる日中人皇乃

後裔大皇按司朝公乃男なり

國の源大皇按司の傳小僧より舜天を産むといふも故出を男の事切

張澄小大皇按司は為朝の男なりといふは為朝小を按司と稱すといふは

朝公に即ち為朝乃為世有さるる節にありといふは法師琉球

外務省

物語りも彼國の神の社を傳西の部を朝に崇めりて、（中山王尚巴志の）天孫の命を以て見えり、此説を案を據りて、（中山王尚巴志の）處り

三傳して義中にて、（中山王尚巴志の）天孫の命を以て、（中山王尚巴志の）高祖の位を

讓りて、美祖四代玉城乃時國内亂を大里按司山南王

と稱し、今帝仁按司山北王と稱し、玉城、惟首里等流致

而彼有る自ら中山王と稱し、國を分ちて三部と

せり、互不相攻伐を、中山王尚巴志より、山南山北

と争せり、（中山王尚巴志の）程中山乃時と稱し、（中山王尚巴志の）故の流は

尚氏傳へり、今小のれり、（中山王尚巴志の）明使より中山山南山北、（中山王尚巴志の）尚巴志の

外務省

位の何國人傳りて、（中山王尚巴志の）尚巴志の命を以て、（中山王尚巴志の）高祖の位を、（中山王尚巴志の）如く稱し、（中山王尚巴志の）尚巴志の命を以て、（中山王尚巴志の）中山王傳使略より、（中山王尚巴志の）巴志の山城一統を、（中山王尚巴志の）明使より、（中山王尚巴志の）尚巴志の賜りて、（中山王尚巴志の）我意承中より、（中山王尚巴志の）何れを、（中山王尚巴志の）何れを、（中山王尚巴志の）使流致、（中山王尚巴志の）流致、（中山王尚巴志の）國を、（中山王尚巴志の）志者より、（中山王尚巴志の）巴志の父思流より、（中山王尚巴志の）尚巴志を稱し、（中山王尚巴志の）なり

中邦小通を、（中山王尚巴志の）南島志乃、（中山王尚巴志の）琉球属和録の國史

紙了

推古天皇二十四年南島乃振次人等朝尋より多祢阿

麻彌、（中山王尚巴志の）等流人朝貢、（中山王尚巴志の）正統、（中山王尚巴志の）賜りて、（中山王尚巴志の）各差阿と死

阿麻彌、（中山王尚巴志の）今流大島、（中山王尚巴志の）徳高、（中山王尚巴志の）琉球乃、（中山王尚巴志の）弟朝を五代

より、（中山王尚巴志の）此事を、（中山王尚巴志の）より、（中山王尚巴志の）天朝遠、（中山王尚巴志の）暑より、（中山王尚巴志の）冷り、（中山王尚巴志の）世間小

琉球藩や漢出小録一と冊封冠版を受く時、烟乃

浩武五年、我意安五年より、尔是清朝より、

烟直徑絶え、漢出烟直乃事、唐國
往來乃條、太田亮記、足利

將軍義量乃附、永平二年、正月、廿五日、義量より、

琉球王小録より、返筒せのせ、文中進物等、此事も

見元より、水より、比より、弟朝より、事知、

町紀畧分、鶴身代記等、小永言、十一事より、入夏、

と記、公私雜執り、將軍義教より、乃、返筒、

外務省

貴久記、高橋、如藩、小永言、元年、二月、十一日、義教、

陸奥守忠國より、命より、大覺寺大僧正、尊着と、

尊着、義教の舎弟
小く、義昭と、梅氏、と、賞、

ゆ、二、他國、薩摩の方向、

す、と、め、と、今、

事、必、き、り、安、中、常、代、記、

船、と、稱、

より、地、

五事ノ實地事見元將軍義政が藩ノ寶徳三年七月
弟首任九月に就くもの旨目一千貫を林中小進に
とあり康富記同年八月十二日乃下と或説有り琉球
乃高船去月未探津國三庫と着津きし守護廻門
右京右史勝元より人を通じし彼高物を撰以しと未
料是を渡さば先と事との料是等四五貫有り及と未
返亦ありしと書物も抑りしと為人に送らるるに
中江少より公方より奉行三人を遣はされし記明せし
外

外務省

つと抑りし物系兆ありしと返りしに
奉りしと上洛せし記しとありしと
亦八日琉球人系洛當は代六と旨目より長史と稱し
宿務殿の度知より於て三洋度より席を敷とありしと
書目代と旨目とありし康富記と先と事との旨目より
及び朝見の式ありしと旨目より事推し知るし
すし親基日記と文正元年七月東首の事見元と國
東往記と文正十一年旨目とありし別中又と東首
筆案と同年十八年旨目と太閤天下統一記の儀ありしと

北極地と出るより二十六年二月三巻と行り大島巻記と
 陸冬雪氷はく十月より三月まで冬衣買より九月
 より夏衣と用ふと琉球録と耕他に九月十月乃至
 福種中より十月十月の以中田より極く内より
 獲りぬりて見ゆ夏山雜記有難文新創記より
 一歳中五穀再熟はとくは産物清一統志中山信
 録南島志等小洋より就中綿草芭蕉紙等より
 其他酒石砂糖著著種織多薬種多具細工朱
 漆出細工等より一善美通商考多國産物類大
 島巻記中要録等に見えり

外務省